

研修・ホームステイで学んだこと

薬学部 薬学科 2年

カナダは多国籍とうこともあり、とてもフレンドリーで普通に歩いても話しかけられる。日本とは全く異なる文化で最初は驚いたが、とてもよい文化だった。

日本では、お店に入ったとき「いらっしゃいませ」といわれるだけで何か物を買わないと、気まずい雰囲気になることがしばしばある。しかし、カナダではそれを感じさせない空気があった。「日本人は親切だ」ということを耳にすることがあるがカナダに住んでいる人の方が遥かに親切だと思った。

アルバータ大学での授業

授業がとてもアクティブで、毎回グループでの討論・プレゼンテーション・ロールプレイ・など日本では体験したことないほどに積極性が求められた。わからないことは授業中であっても遠慮なしにたくさん質問でき、先生も生徒が理解できていなさそうであれば、よりわかりやすい英語表現で教えてくださった。でも、私はそのような積極性にはあまり慣れていなくて、精神的にかなりつらかった。

クラスには日本人と韓国人の学生がいた。普段は決して体験することができない日本や韓国の大学生と英語を通じてコミュニケーションを取ることができ、異なる価値観やそれぞれの文化を共有した。幼い頃から学校でもテレビでも日韓問題を耳にしていたので、韓国人に対してはじめは良い印象は全くなかった。しかし、それは国同士の問題なだけであって一人一人は、結局同じであることを認識した。

ホームステイ

ホームステイ先はフィリピンの3人家族であった。

とてもいい方たちで、ご両親は二人とも看護師として働いていて非常に多忙であるにも関わらず、朝昼晩としっかりご飯を作ってくくださった。予想していた通り、料理は毎回フィリピン料理であったが、フィリピン料理をおそらく一度も食べたことなかったのでカナダにいてフィリピンも体験できるという一石二鳥の体験をすることができた。

授業中もホームステイ先で何度も何度も言われたことは「Don't be shy」だった。

その言葉を聞く度に、とても安心することができ、失敗を恐れずにもっと積極的に挑戦していくことが大切であると学んだ。カナダに滞在しているときは毎日あと何日で帰れるか・あと何回授業を受ければ終わるか・あと何分で授業が終わるかをずっと考えていた。でも、帰国してからしばらく経った今振り返ってみれば、毎日毎日が体験したことがないことばかりでとても充実した3週間になった。今までで一番忘れられない夏だった。